

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(青い鳥ユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和5年2月9日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ふるさとではアットホームな雰囲気の中で、ゆっくりとした時間を過ごして頂きながら、安心安全な中、自立支援に努めています。それぞれの能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなどの役割をもって頂くことで日常生活にメリハリがつき生き生きとした毎を送り、出来る事の継続が自信に繋がるようサポートしています。  
 ・自立支援を基本とし、外出を通して地域との関りを楽しんで頂ける時間を提供しています。施設前には、遊歩道「木もれび道」があり散歩するには最適な環境。  
 ・お一人お一人の自由と尊厳を守り、その人らしく安心して楽しく過ごして頂き個々のペースに合った暮らしを提供しながら寄り添い怒哀楽を共にし信頼し合える関係を築いていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームふるさと」はJR苫小牧駅からバスで10分ほどの幹線道路に面した場所に立地している。事業所前には遊歩道「木漏れ日の道」があり、散歩しながら季節の移り変わりを楽しむことができる。明るく開放感のある食堂と談話室があり、好きな場所でゆっくり寛げるような造りで、壁には利用者と一緒に制作した作品や季節の装飾が施されていて家庭的な温もりが感じられる。理念の共有面では、会議や携帯カードで確認して理解を深め、全職員で実践を目指して熱心に取り組んでいる。管理者とユニットリーダーを中心に、一人ひとりの思いに寄り添いながらその人の立場に立って、自分らしい日常生活が送れるような支援を行っている。管理者は、職員の意見や提案を業務改善に反映させ、働きやすい職場環境の整備にも力を注いでいる。ケアマネジメントは、毎月モニタリングを実施して家族と本人の意向を確認し、現状に即した適切な介護計画を作成している。感染症流行時でも、利用者と一緒に花の苗を植えたり、近隣の散歩やドライブなど外気に触れる機会を積極的に設けている。食事は、行事や利用者の希望に応じて握り寿司やピザの出前を取るなど楽しめるように工夫している。法人研修や苫小牧市主催のオンライン研修を活用しながら、職員の資質向上にも前向きに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内の見える所に理念を掲げ、それを共有し実践に繋げている。	施設理念の中に「ご家族や地域との結びつきを大切にします」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。ユニットリーダーが理念に触れた話をして意識付けしたり、携帯しているカードをみて各職員が再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍による影響で、日常的な交流は難しくなっている。	町内会に加入して夏祭りなどの行事に参加していたが、感染症の流行により散歩の時に挨拶する程度になっている。市役所主催の「笑顔の花咲く写真展」に作品を出展している。感染症収束後は、地域行事への参加を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログ・ホームページ・パンフレットの活用で、日常の様子や事業所の概要を発信し理解を得られるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践・評価・取組状況は、毎月モニタリングを発送し報告している。又、運営推進会議は、コロナ禍による影響で書面での開催となっていて、意見など促しているが余り寄せられる事はない。	感染症流行のため会議は書面で開催し、事業所状況や職員の入退職、職員の研修報告などを行っている。議事録は、家族や町内会長、市役所、地域包括支援センターに送っているが、意見や質問が得られるまでには至っていない。	テーマを記載した会議案内や簡単な資料を送付し、参加できない家族の質問や意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、事業所の実情など伝える事ができている。又、担当者には相談等しながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。	管理者は、書類の提出で市役所を訪れた時に担当者や情報交換したり、困難事例を相談して解決につなげている。福祉部生活支援室と電話でやり取りすることもある。苫小牧市主催のオンライン研修に職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを職員に周知して理解を得られるようにしている。又、不適切ケア防止研修を実施し、全ての職員がそれを理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいると考えている。夜間のみユニットの施錠をしている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、年2回の勉強会で禁止行為11項目の確認も行っている。3か月ごとに不適切ケア防止委員会を開催し、各ユニットから取り上げた議題を検討している。利用者が外出しようとした時は、閉塞感を感じないように柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に研修を実施し、全職員が半年に1度虐待防止研修の実施を通して学び、e-ラーニングでも取り入れながら防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	e-ラーニングを活用しながら権利擁護を学ぶ機会を設けているが、全職員が理解できているかは分からない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定などの際には十分な説明を行い、理解・納得を得ている。又、不安や疑問点にも答え同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けていて、契約時に説明している。殆どの入居者様・ご家族は管理者や職員に意見を寄せて下さるので、思いを反映させる事が出来ている。	来訪時や電話で利用者の様子を伝えながら家族の意見や要望を聞き取り、タブレット端末に記録している。毎月、モニタリング用紙を送る時に担当職員の手紙と写真などで近況を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などを通して、意見や提案を聞いて頂き反映させてくれている。	感染症流行のため、ユニットリーダーが各職員の意見や提案を聞き取り書面で会議を行っている。利用者への適切な支援方法や職員の働きやすい環境整備、業務改善などに反映させている。職員は、利用者担当や係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、やりがいと向上心を持って働くことが出来るよう、勤務状況を把握し職場環境の改善・見直しに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格支援制度の取り組みで、資格取得を目指す職員のバックアップに努め、法人内外の研修を受ける機会を設けスキルアップに繋がれるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年は、WEBでの研修に参加できる機会が多くあり、数名の職員が受講している。又、管理者は同業者との交流を図りサービスの質を向上させられるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない事への不安や要望を聴き、出来る限りで不安を取り除き安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを汲み取りながら、出来る事・出来ない事を説明し、出来る限りで要望などに応えられるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が先ず必要としている支援を見極める為、時間をかけて話を聴いたり、関係機関などから情報を提供して頂くなどして対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士支え合える関係を築いていけるよう努めている	本人の気持ちに寄り添いながら接し、暮らしを共にする者同士支え合える関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を家族と共に支えていけるような信頼関係を築き、時には家族の協力を得ながら共に支えていける関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りで、関係が途切れぬよう支援に努めているが、コロナ禍による影響により思うような支援が出来ていない。	知人や友人が来訪することはないが、携帯電話で話をしている利用者もいる。親族と手紙や電話で連絡を取る利用者もあり、職員は年賀状の投函などを支援している。感染症収束後は馴染みの場所に出かけたり、家族との外出を再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握に努め、個々の自由を尊重しながら孤立を防ぎ、関わられる時間を提供しながら支え合いの支援に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去も含め、必要に応じてフォローにまわり、情報を得ながら出来る限りで相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が高く、意思の疎通が困難ではあるが、一人ひとりの表情や仕草で思いを汲み取り、意向の把握に努めているが、満足を得られているか分からない事もある。	会話や表情、全身状態などから把握している。難しい場合は、本人の立場になり適切な方法を職員間で検討している。センター方式(B-3)シートは、記入内容や書類整備にばらつきがみられる。	全員の趣味や嗜好などを書面で確認できるように、センター方式(B-3)シートに具体的に記入し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族や関係者からの情報を元に個々のファイルを作成し、職員間で共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や仕草、日常の様子・行動を観察しながら有する力の把握に努め、個々の過ごし方を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員によるモニタリングや状態に応じてアセスメントを行い、担当者会議などで話し合い現状に適した介護計画を作成している。	担当職員が実施した毎月のモニタリングを基に、計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。モニタリングは毎月家族にも送っている。サービス内容項目に沿ってタブレット端末に変化を記録し、モニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・状態を個別に記録し、職員間で情報共有しながらケアに努め、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでは、既存のサービスに捉われることなく柔軟な支援やサービスの提供を心掛け実施してきたが、コロナ禍による影響で思うようなサービスの提供が出来ていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、以前のように思うような活用ができなくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望を元に主治医を選択している。尚、事業所の協力医療機関に同意を得た場合は個々の状態に応じて定期受診・月2回の往診や臨時受診が受けられるよう支援している。	利用者の身体状況に応じて、協力医療機関に通院したり訪問診療を受けている。家族と専門医を受診する時は、健康状態を書面で伝えることもある。往診と受診は「医療情報」に個別に記録し、タブレット端末にも記録している。	

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護師と情報を共有し、個々の状態に応じて適切な受診や処置などが受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、病院関係者と情報交換した上で安心して治療が受けられるよう話し、早期退院ができるよう病院関係者との関係づくりを行い信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、週末期に向けた支援は実施していないが、契約の際には説明をしている。今後は、本人・家族の意向に沿った支援が出来るよう取り組んでいきたいと考えている。	利用開始時に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」と看取り指針に沿って事業所の方針を説明している。家族の希望に応じて主治医の判断の下に看取りも行っているが、現在は医療機関に移る利用者が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、職員間で共有しているが定期的な訓練は受けていないため、実践力を身に付けていく必要があると考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は実施できていて、地域の協力も得られているが、地震による訓練は未実施となっている。	火災予防協会と近隣住民の協力の下、年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。室内の危険箇所を確認しているが、ケア別の対応については話し合っていない。感染症収束後は、職員の救命講習の受講を計画的に進める意向である。	災害時におけるケア別の個別対応について話し合い、定期的に支援方法を確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、プライバシーを損ねる事のない言葉かけを意識し対応している。	言葉かけや接遇に関する研修を行っている。申し送りの際は利用者に声の届かない場所で行い、プライバシーに配慮している。書類は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促し本人の思いに添えるよう支援しているが、意思の疎通が困難な入居者が多いため、表情や仕草で意思の確認に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来る限りで希望に添った支援の提供と考えているが、介護度が高く意思の疎通が困難な事から、安心・安全第一に苦痛のないケアの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしながら、その時々場面合った身だしなみを心掛け支援している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しむ事は出来なくなっているが、個々に合った形で提供しながら、出来そうな事は一緒に入るよう支援している。	利用者も食材を切るなどの調理に参加している。利用者の希望で献立をピザやお弁当に変更することもある。誕生日には赤飯やちらし寿司など希望の食事にしたり、いも餅などのおやつ作りも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、バランスの取れた食事の提供ができていて、個々の状態に応じた食事・水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理加算に伴い、歯科医師の助言を元に個々の口腔状態に応じた口腔ケアの支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ベッド上でのオムツ交換が多くなっているが、個々の排泄パターンを把握し支援している。又、状態に応じて可能な限りでトイレでの排泄を支援している。	タブレット端末で全員分の排泄状況を記録している。二人介助なども行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間のみベッド上での交換や、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。個々に合わせた支援方法を取り、失敗を減らし排泄の自立へつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師・かかりつけ医と連携を密に、便秘の原因を知る事で個々に応じた予防に取り組み、便秘による苦痛が軽減できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員不足・入居者の状態に日々変化があり、個々の希望やタイミングに合わせた支援は出来ていないが、状態に応じた入浴支援を実施し週に2~3回の入浴となっている。	毎日入浴が可能で、1人当たり週2~3回の入浴を行っている。利用者の希望で数日連続での入浴や、入浴剤の使用など可能な限り意向を汲んでいる。状況に応じてシャワー浴での支援もあり、同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や全身状態に応じた休息がとれるよう支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストは共有できるよう個々のファイルに綴り、目的や副作用の理解と、服薬支援・症状の変化を確認しながら記録を取るなど職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態能力に応じて役割や楽しみ事を提供し、出来る限りで気分転換できるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍による影響で、以前の様な外出はできなくなって、主に定期受診が外出となっている。暖かい時期には、施設前の遊歩道を散歩したり車でドライブに出かけていた。	遊歩道や近隣の庭先を見ながら町内を散歩したり、花壇の花の世話などで外気に触れる機会を設けている。緑ヶ丘公園へのドライブにも出かけている。感染症の収束状況をみながら家族との外出や自宅への一時帰宅なども再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持・使う事大切さは理解できているが、個々の状態により現在では支援する事ができていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援出来ている。又、手紙やハガキは届く事があるため、本人に渡して説明している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、安全で安心して過ごして頂けるよう、季節感を取り入れながら、心地良い環境・空間作りに努め工夫している。	食堂と談話スペースは広々とした空間になっており、ソファを複数配置し、思い思いの場所でゆったりと過ごすことができる。雛人形などの季節の装飾や、写真展に出展した利用者の写真などが飾られており、家庭的な温かみを感じられる共用スペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの他、テレビ前には2人掛け・3人掛けソファを設置し、気の合う者同士と一緒に過ごせるような場所を提供している。又、1人用のソファも2脚配置し思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂き、本人が安心して心地よく過ごせるよう、本人・家族に任せている。	椅子やテーブル、タンスなど昔から使い慣れた家具の他、テレビや扇風機などの家電製品を持ち込んでいる利用者もいる。観葉植物や人形がさり気なく飾られており、一人ひとりの利用者が安心して過ごすことができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて、わかりやすい表示や安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(憩いユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和5年2月3日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0193600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0193600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ふるさどではアットホームな雰囲気の中で、ゆとりとした時間を過ごして頂きながら、安心安全な中、自立支援に努めています。それぞれの能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなどの役割をもって頂くことで日常生活にメリハリがつき生き生きとした毎を送り、出来る事の継続が自信に繋がるようサポートしています。  
 ・自立支援を基本とし、外出を通して地域との関りを楽しんで頂ける時間を提供しています。施設前には、遊歩道「木もれび道」があり散歩するには最適な環境。  
 ・お一人お一人の自由と尊厳を守り、その人らしく安心して楽しく過ごして頂き個々のペースに合った暮らしを提供しながら寄り添い怒哀楽を共にし信頼し合える関係を築いていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所に理念を掲げ共有できている。 管理者・職員共に理念を意識しながら、実践に繋がっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この数年、コロナ禍において日常的な交流は難しいと感じている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、ブログを更新し日常の様子などを発信している。又、パンフレットの活用で地域にアピールしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践・評価・取組状況は、毎月モニタリングを発送し報告している。又、運営推進会議は、コロナ禍による影響で書面での開催となっていて、意見などの聞き取りを行っているが余り寄せられる事はない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、事業所の実情など伝える事ができている。又、担当者には相談等しながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。 苫小牧市主催の研修は参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを職員に周知して理解を得られるようにしている。又、不適切ケア防止研修を実施し、全ての職員がそれを理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいると考えている。 夜間のみユニットの施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に虐待防止の研修を実施し、全職員が半年に1度虐待防止研修を通して学び、e-ラーニングでも取り入れながら、定期的な研修を行い常に注意喚起している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	eラーニングを活用しながら権利擁護を学ぶ機会を設けているが、全職員が理解できているかは分からない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定などの際には十分な説明を行い、理解・納得を得ている。又、不安や疑問点にも答え同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の書面活用や日常の連絡の際に意見を伺う事もあり記録に残し共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて個人面談等を設け意見や提案を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持って働く事ができるよう職場環境や個別の条件等の整備がされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合わせた研修内容を提示しスキルアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為機会は多くなかったが対面での研修もありネットワーク作りに繋がっている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からのフェースシートを参考にしながら本人の要望を聞いたり、表情を確認しつつ安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を聞き取り、要望があれば応えていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では注意深く観察しまず必要なケアの把握に努め、より良いサービスが出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で、暮らしを共にする者として家族のように寄り添い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人をご家族と共に支えていけるような信頼関係を築き、時には家族の協力を得ながら共に支えて行ける関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が制限されているが個別に対応したり、電話や手紙のやり取りなどで援助している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう気を配り、それぞれの性格・関係性を把握しながら関りの機会を持てるよう努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去も含め、必要に応じてフォローにまわり、情報を得ながら出来る限りで相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の関りを大切にしながら、意思表示できない場合でも会話等から希望している事を見つけ確認するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート等で情報を確認し、サービス利用の経過後もシートの更新を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録し職員間で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当を決めモニタリングを行い介護計画と一緒にファイリングし次回の介護計画に活かせるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の要旨は小さなことでも記録に残し、本人の意向を汲み取る情報として介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で必要だと思われる状態の時は個別に柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で活動や行動に制限があり取り組む事が難しかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を元に主治医を選択している。尚、事業所の協力機関に同意を得た場合は個々の状態に応じて定期受診・月2回の往診や臨時受診が受けられるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化、気づきや異常等は相談し対応wp仰ぐと共に緊急受診等の対応もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、病院関係者と情報交換した上で安心して治療が受けられるよう話し、早期退院ができるよう病院関係者との関係づくりを行い信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、週末期に向けた支援は実施していないが、契約の際には説明をしている。今後は、本人・家族の意向に沿った支援が出来るよう取り組んでいきたいと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、職員間で共有しているが定期的な訓練は受けていないため、実践力を身に付けていく必要があると考えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は実施できていて、地域の協力も得られているが、地震による訓練は未実施となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の習慣や性格などを考慮しながらプライバシーを尊重した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら自己決定ができるような言葉掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに添った生活ができるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣等の自己選択をして頂いたり、一緒に考えたりしながらその人らしいおしゃれを楽しめるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で一緒に食事をする事は叶わなくなったが、調理準備や片付けの声掛けをし自立支援に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、バランスの取れた食事の提供ができていて、個々の状態に応じた食事・水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理加算に伴い、歯科医師の助言を元に個々の口腔状態に応じた口腔ケアの支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が自立だが、そうではない方へは排泄パターンを把握し失禁を軽減できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師・かかりつけ医と連携を密に、便秘の原因を知る事で個々に応じた予防に取り組み、便秘による苦痛が軽減できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間帯での支援となってしまうが楽しめるような雰囲気作りに努め支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時、その人の状況に合わせて個々のペースでサポートして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状はふぁいりに入れいつでも確認できるように保管しており必要に応じて使用している。重要な事は連絡ノートにて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割や、レクリエーションを通して気分転換を図ったりその人の能力を活かしつつ楽しめるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、希望通りに外出する事は出来ないが、屋外散歩や近場の公園へドライブする等の支援を実施した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は複数名いるが、その人にとって必要なものだと認識のうえで管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援を実施している。又、職員からの提案で電話を掛ける事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、清潔に安全な導線を保ちつつ、心地よく過ごせるよう援助している。又、季節の飾りつけを行い、話題に出来るよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にも食席のほか、ソファを何か所かに配置し自由に過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって愛着のあるものを置くなどしながら落ち着いて過ごして頂けるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやキッチンには導線を確保し、食卓の椅子に名前を付けるなどして安全に自立した生活が出来よう工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームふるさと

作成日：令和 5年 3月 18日

市町村受理日：令和 5年 3月 20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	昨年同様の課題となっている。具体的なテーマを掲げる事ができておらず、ご家族や関係者の方々には、返信用封筒を同封にて文書で意見や要望の収集に取り組んできた結果、数名のご家族からお手紙が寄せられ意見や要望は確認できなかった。	多くの意見や要望を収集し、日常的な日々のケアに反映させ、サービス・質の向上に活かしていけるよう取り組んで行く。	テーマを記載した会議案内と共に簡単な資料を送付し、質問や意見を得られるよう取り組んで行く。又、どんな事に興味があるか等を事前に確認し、テーマの計画(選択)に活かせるようにする。	1年
2	23	昨年同様の課題となっているが、評価後は目標達成に向けた取り組みを行ってきており、アセスメントシート・ADL評価表・様式B-3・D-1・D-2シートは、プラン更新時や状態の変化に合わせて作成し、且つシステムに記録を残しているが、B-3シートへの具体的な記入がされていない。	B-3シートの活用で、全員の趣味や嗜好などを具体的に記入しておく事により、いつでも書面で確認できるようにしておく。又、変化に応じて追記していく。	今までと同様に、アセスメントシート・ADL評価表・センター方式の必要な様式を活用しながら、具体的な且つ変化に応じて小まめな追記・更新を行い職員間で共有し、ケアプラン作成やより良いケアの向上に活かしていけるよう取り組んで行く。	1年
3	35	昨年同様の課題となっていて、評価後は取り組みを行ってきたが、会議は書面開催となっていた事もあり、災害時におけるケア別の個別対応についての話し合いは出来ておらず、定期的な支援方法の確認は出来ていません。も出来ていなかった。	全職員が、災害時における緊急対応を身に付け、対処法を把握できるようにしていく。	今後は、会議を通して地震などの災害マニュアルを参考にしながら話し合いをしていく。又、動画等を用いて研修が行えるよう計画していき、全職員が災害に対する意識を高められるよう取り組んで行く。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。